

# セットたまねぎ セル育苗の技術ポイント

農林水産研究所

年内に出荷するたまねぎのセット栽培では、通常、養成された小球根を手植えで定植しますが、セル育苗技術を応用し、セルトレイで定植苗を養成すると、たまねぎ用の小型半自動移植機による機械定植が可能になります。

農林水産研究所では、この技術を利用してたまねぎの有機栽培に取り組んでいます。

## 育苗の手順



3月上旬

5月下旬まで

8月上旬まで

定植3週間前

定植2週間前

8月下旬

### は種

- 品種はセット専用種の「**シャルム**」
- 200~288穴のセルトレイを利用。

### 育苗

- 無加温ハウス内にうねを立て、薄い不織布を敷いて、セルトレイを直置きして管理。
- 適宜、有機液肥を施用。

### 休眠・貯蔵

- 育苗終了後、かん水を中止。
- 枯死した地上部を切除し、トレイのまま屋内冷暗所で貯蔵。

### 休眠打破

- セルトレイを5℃の冷蔵庫に乾燥状態で入庫し、1週間低温処理。

### 芽だし

- 低温処理後、かん水を開始し、50%遮光下の雨よけハウス内で芽出しを行う。
- 機械定植が可能。

### 定植

- 高温期の定植となるので、白黒マルチを利用。
- マルチ被覆により雑草発生を抑える。



有機新たまねぎの  
年内収穫が可能です。



### ポイント・注意点

- 養成するセット球の大きさは、2~3cmが理想。
- 芽出し苗には、病害予防のため銅剤を散布。
- 定植時期が遅れると、青立ち株になります。